

# かけり

第14号  
令和5年盛夏  
発行  
真龍山大雄寺  
北見市留辺薬町宮下町 109  
TEL 0157-42-2418  
FAX 0157-42-2748

## 住職挨拶

お盆の時期となりました。三年間、続いたコロナ禍での生活もようやく緩和され、以前の生活に戻りつつあります。今まで当たり前だったことが制限され、目に見えない未知のウイルスに怯える日々でした。そしてこの長い自粛生活が、私たちの価値観や行動様式までも変えてしまいました。全てが簡略化される中で、繋がりがまでも薄らいでしまったのではないのでしょうか。

更にコロナ以後の急激な社会変化が、偏見と分断を生み、孤立を深め悩まれる方が増えているのも問題となりました。社会の流れに対応しなければならぬ心身の負担が、昨今の事件に繋がっている気がしてなりません。お釈迦様の教えの大前提は「共に」の精神です。生きていくための悩み、苦しみは誰かに代わってもらうことはできません。しかし分かち合うことはできるはずで



平成29年晋山結制 稚児行列の様子

誰かに話すことで少しでも和らぎ、自分の気持ちを聞いてくれる存在がいるだけでも心の支えになると思っています。「喜びは人に伝えて倍となり、悲しみは人に伝えて半減する」私たちは誰もが孤独の辛さを知っています。だからこそ思い悩む人の傍に居続け、喜びも悲しみも分かち合う、そのよ

うな社会でありたいです。  
合掌

## お寺の動き

### 大雄寺橋点検・調査

北見工業大学の門田助教かしたを中心に三上名誉教授などの助言を頂き、五月十九日、六月七日の二回に渡り、大雄寺橋の強度点検を行いました。偶然、近くの橋を点検されていた時、声を掛けたことをきっかけに快くご協力頂きました。架けられて六十年近く経っているだけあって、老朽化が目に見えて進み、安全性を懸念しておりました。検査は続いておりますが、調査結果はまだ先になります。皆様が安心して快適にお参りできるよう考えていきたいと思っております。



調査の様子



橋の現状②



橋の現状①

## 二世寺族 諦観院玉室妙幸禅尼上座 (米田幸子)一周忌法要

昨年、十月十七日、二世寺族 諦観院玉室妙幸禅尼上座(米田幸子)の一周忌法要を執り行いました。まだコロナ禍の状況下で、役員・世話人のみのご案内となりましたが、改めてお礼申し上げます。今年の三回忌法要は、皆様にご案内させて頂く予定なので宜しくお願い申し上げます。



## 令和5年度 大雄寺行事予定

- 8月16日
  - 盂蘭盆施食会  
新亡施食会 午前11時より  
一般施食会
- 9月23日(秋分の日)
  - 秋彼岸会 午後1時より
- 10月17日
  - 二世寺族三回忌 午前11時より
  - 成道会
- 1月17日
  - 大般若祈祷会 午前11時より
- 3月21日(春分の日)
  - 春彼岸会 午後1時より



# 仏事

## Q & A

知ってるつもりでも、わからないことが多い仏教用語・作法もあるようです。そこでQ&Aのコーナーを設けました。

**Q** 私達、禅宗の正しい焼香の作法はあるんでしょうか？

**A** 法事や葬儀の席での焼香の仕方に戸惑う方も多いようです。宗派によって異なりますが、私達の宗派では、①合掌②主香③従香④合掌の流れになります。主香は故人の冥福を祈ってお香、従香は最初の主香が消えないように抹香を加える事です。ただ作法も大事ですが、やはり心ある合掌が何より大切な事だと思います。

①合掌



①数珠を左手に持って祭壇の前に進み、仏前に合掌 礼拝する。

②主香



②左手をそえて、抹香を額の前に合掌礼拝する。

③従香



③2回目は従香なので、抹香をつまみ、そのまま香炉に入れる。

④合掌



④もう一度、数珠をかけて仏前に合掌礼拝する。

**Q** 最近「永代供養」という言葉を聞きますが、どのような意味なのでしょう？

**A** 「永代供養」とは、私達（お寺）が守り手のないお骨を預かり、ご供養とお骨の管理を代行に行う事です。自分の亡き後、ご先祖の供養をどうしたらよいか、と悩まれる方も増えてまいりました。色んな供養方法も増えてきましたが、それぞれの家庭事情もありますので、お寺の方にご相談下さい。

## 心のたすき

私たち一人一人、それぞれの生き方があるように、同じ数の別れのカタチがあります。そこにあるのは与えられた命を真つ当した姿と、亡き人とのかけがえない思い出だけです。ここでは毎回、色んな方に亡き人との思い出を語ってもらい、その思いを次の方に渡してもらいたいと思います。

### 「一日一生を一日一笑として」



木幡 繁子  
(北見市)

十勝より北見に住んでいる主人の所に嫁いで五十五年になりました。子供には恵まれませんでしたが、お互い共働きをして充実した有意義な日々を過ごしていました。しかし平成二十七年、最愛なる主人が突然、脳出血のため、黄泉の世界に旅立ちました。

当時は悲しく寂しい日々を過ごしていましたが、長く続けていた趣味の仲間励まされ、元気を頂きました。今は詩吟の指導をしたり前向きに過ごしています。お友達や近所の皆様方に助けられながら、これからも感謝の気持ち忘れずに、一日一生を一日一笑として過ごしたいと思います。



### 令和五年度役員・世話人

- |     |             |       |            |
|-----|-------------|-------|------------|
| 住職  | 米田憲人        | 世話人   | 佐川和則 (旭南)  |
| 総代  | 戸田健司 (大富)   | 全     | 渋谷恒彦 (秋田)  |
| 世話人 | 佐々木勝太郎 (豊金) | 全     | 工藤良二 (宮下)  |
| 全   | 木幡和清 (旭中央)  | 全(監査) | 荒木正憲 (旭一区) |
| 全   | 吉村義正 (北見市)  | 全(監査) | 尾関昭夫 (北見市) |
| 全   | 井上勝昭 (旭三区)  |       |            |

### 編集後記

以前の生活に戻りつつも葬儀・法事等の縮小の流れは避けられそうにないと思っています。たとえ規模が小さくとも故人を思う気持ちが変わらなければ、時代に則した法要と言えるでしょう。ただ故人への思いだけは小さくならないように働きかけたいです。

住職